

# 令和4年度豆類振興事業(調査研究助成費)の成果概要

④課題:微量要素肥料の施用が小豆およびいんげんまめの必須微量元素の富化および収量安定性に及ぼす影響

代表者:酪農学園大学 農食環境学群循環農学類 教授 義平 大樹

## 目的

小豆やいんげんまめに対し、く溶性および水溶性のホウ素含有資材の土壌散布を行い、収量と生育に及ぼす影響を明らかにする。

## 成果

### ①小豆におけるホウ素・亜鉛施用試験

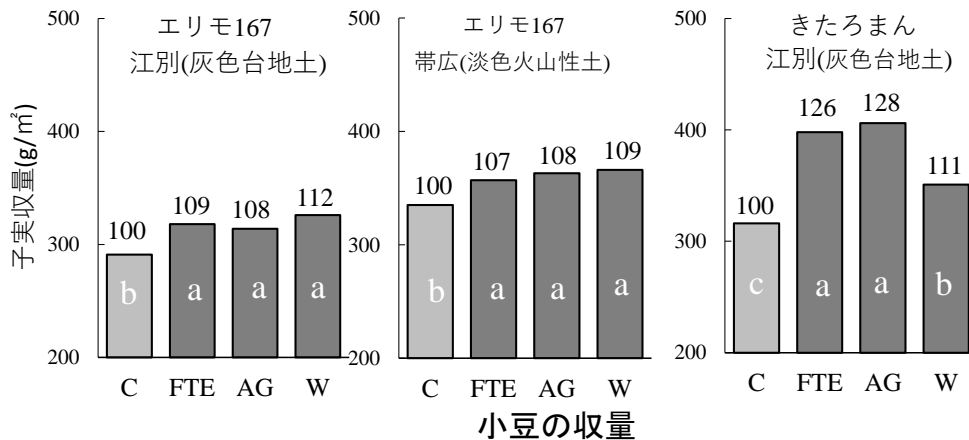
・ホウ素施用区および亜鉛施用区で、増収効果が確認できた。ホウ素施用による増収要因はすべての試験区において莢数の増加であった。

### ②いんげんまめにおけるホウ素・亜鉛施用試験

・一部を除いたホウ素施用区で、増収効果が確認できた。ホウ素施用による増収要因はすべての試験区において莢数の増加であった。

### ③まとめ

・欠乏症はみられなくても、潜在的にホウ素含量がやや低い圃場では、小豆といんげんまめを栽培する場合は、360g/10a程度のホウ素施用により増収するケースが多く、収量ポテンシャルが高く、収量安定性が高い品種の増収効果は、低い品種に比べて高くなる傾向にあると推察した。



異なるアルファベットは有意水準5%(Tukey)で差異があることを示す。

C: 無処理区

FTE: く溶性の酸化マンガン 酸化ホウ素を基肥として施用

AG :FTEにく溶性の亜鉛を添加

W: 水溶性の硫酸マンガン、硫酸亜鉛、ホウ酸塩をアグリエースに準じて施用した水溶性区